

稼げるまちづくりを支援する包括的政策パッケージ2019  
～地域の「稼ぐ力」や「地域価値」の向上に向けて～

平成 3 1 年 3 月  
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局  
内閣府地方創生推進事務局

1. 包括的政策パッケージの位置づけ【資料1】

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を支えるためには、「まち」に活力を取り戻し、人々が安心して暮らす社会環境をつくり出すことが必要である。

平成 30 年 12 月 21 日に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略 2018 改訂版」においては、地方都市において、地域の「稼ぐ力」や「地域価値」の向上を図る「稼げるまちづくり」を推進し、まちに賑わいと活力を生み出し、民間投資の喚起や所得・雇用の増加等につなげることとしている。この一環として、一定の地域にひとと企業が集積することによる「密度の経済」を「稼ぐ力」の向上につなげていくためには、外国人観光客のインバウンド需要の取込みや高齢者等の健康長寿サービス需要への対応、若年者・創業者のチャレンジによる新たな需要への対応等の視点から、まちづくり会社等の新しい公共を担う民間主体の経営の安定などのソフト施策と、コンパクトシティの形成などのハード施策との連携を図ることが不可欠であり、地域の「稼ぐ力」や「地域価値」の向上に向けた地域のまちづくりを支援するため、関係府省庁一体となって取りまとめた包括的政策パッケージを今後も改訂することとされている。

これを踏まえ、国は、包括的政策パッケージを改訂し、コンパクトシティの形成や公共交通網の形成、再編等の持続的(サステイナブル)なまちづくりに不可欠な施策を含め、地域が「密度の経済」を実現し、「稼ぐ力」や「地域価値」を高めるまちづくりを支援するソフト・ハード両面の施策メニューを取りまとめ、地域の関係者に対し、わかりやすい形で提示していく。

本政策パッケージでは、「稼げるまちづくり」に資する効果的な既存の制度・支援措置に加え、今後予定する制度改正や財政支援措置を、関係府省庁が一体となって取りまとめたものである。

また、地方都市における稼げるまちづくり取組事例集「地域のチャレンジ100」及び「地方創生に資する不動産流動化・証券化事例集」を取りまとめているので、あわせて参照していただきたい。

## 2. 「稼ぐ力」や「地域価値」を高めるまちづくりの流れ

### (1) 地域の「稼ぐ力」や「地域価値」を高めるまちづくりのフロー【資料2】

賑わいを伴う「密度の経済」の実現、そして、「稼ぐ力」や「地域価値」の向上を図るためには、単に、国の政策メニューを活用することを目的とするのではなく、各地域において、まちづくりを担う主体が、地域の住民等との連携の下、

- ① 客観的な現状分析を行う。
- ② 現状分析を踏まえ、まちづくりの目標・ねらい、その達成に向けた戦略・ストーリーを策定する。
- ③ そうした戦略・ストーリーを地域の住民等と共有し、それらの参画を得て、実行する。その際には、当該地域にとって有益な国のソフト又はハードの施策メニューを適切に活用する。
- ④ 外部環境の変化等を踏まえつつ、まちづくりの進捗を適時に点検し、必要に応じて、目標・ストーリーの見直しを行うとともに、取組みの軌道修正、充実・強化を進めるといった、PDCAサイクルを確立する。

といった流れで、まちづくりを推進していくことが期待される。

具体的には、まず、地域において、まちづくり会社等、地域のまちづくりを牽引する主体が、地方公共団体や地元の経済団体はもとより、地域の幅広い住民に支えられ、それらと協働するといった、まちづくりの推進体制を構築する。その上で、以下のような流れで、明確な目標を掲げ、計画的かつ着実にまちづくりを推進していくことが期待される。

#### ① 現状分析

まちづくりを牽引する担い手を中心となって、RESAS等のデータを活用しつつ、地域の強みや弱み、外部環境の変化や機会・リスクを客観的に把握・分析した上で、担い手を中心にまち全体としてどういった分野で稼ぐのか、そのターゲットとなる「需要」や着目する賑わいの属性を特定する。

## ② 戦略・ストーリーの策定

現状分析を基に、どのようなまちをどのようにつくるか、まちづくりの担い手が主導して、ビジョンやストーリーを策定する。その上で、例えば、まち全体として、「何を実現するか」、「何をどう稼ぐか」、あるいは、「稼ぐために、具体的に何をするか」という点を明らかにする。それらを達成するための取組み・スケジュールを、短期的に検証するアウトプット指標や、中長期的に検証するアウトカム指標といった、体系化されたKPIと合わせた形で、具体的なアクションプランを策定する。

## ③ アクションプランの実行

策定されたアクションプランについて、地域住民や産官学金労言士の協力・参画を促し、それらの共感を得つつ、実行する。その際には、本政策パッケージに盛り込んだソフト又はハードの施策メニューはもとより、各府省庁所管の関連する施策を有効に活用する。

## ④ PDCAサイクルの確立

外部環境の変化等を勘案しつつ、アクションプランに基づく取組みの進捗状況や、当初の現状分析から戦略・ストーリーの策定の過程で設定したKPIの達成状況等を点検した上で、目標の再設定、取組みの軌道修正、充実・強化を含め、アクションプランの見直しを機動的に行う。

## (2) 地域の「稼ぐ力」や「地域価値」を高めるまちづくりの全体像【資料3】

まちづくりの主役は、あくまでも地域であるが、地域経済やまちづくりを取り巻く厳しい環境にかんがみれば、国には、まちづくりの担い手等の取組みを、その進行段階に応じて、シームレスに支援していくことが求められる。

具体的には、

- ① 本政策パッケージの施策メニューを活用した、現状分析並びに戦略・ストーリー及びアクションプランの策定(Plan)、アクションプランの実行・継続(Do)の支援
- ② RESASの拡充、利便性の改善等を通じた、現状分析(Plan)及び検証・見直し(Check/Action)の支援

を行う。

また、各地域の地方公共団体やまちづくり会社等の担い手との意見交換等を通じ、さらなる制度の見直し等について検討を重ねながら、必要に応じて本政策パッケージの見直しを行う。

各地域においては、政策間連携、官民協働等の要素を重視しつつ、本政策パッケージを活用し、それぞれの課題に対応した施策を個別具体的に検討するとともに、地方創生の深化のため先駆性のある取組み等については地方創生推進交付金をはじめとする地方創生関連予算の活用を検討する等、「稼ぐ力」や「地域価値」を高める取組みを積極的に進めていただきたい。

### 3. 地域の「稼ぐ力」や「地域価値」を高めるまちづくり関連施策

本政策パッケージでは、地方公共団体やまちづくり会社等の担い手が、「稼ぐ力」や「地域価値」を高めるまちづくりを進めていくうえで、地域の課題に応じて関係府省庁の各種施策を有機的に連携させて活用できるよう、以下の構成により取りまとめた。

#### (1)「まちの賑わい」づくりに資する需要の類型に横断的な施策メニュー【資料4-1】

地方創生推進交付金等の地方創生全般に関連する施策のほか、「担い手・人材育成」、「新陳代謝」、「既存ストックの活用」、「都市のコンパクト化と周辺等の交通ネットワーク形成等との連携」、「情報提供・横展開」のテーマごとに関連施策を整理している。

#### (2)着目する需要の類型・特定の「賑わい」の属性ごとの施策メニュー【資料4-2】

「国内外の観光客の需要の取込み」、「高齢者等の健康長寿サービス需要への対応」、「若年層・創業者による新たな需要の開拓」のテーマごとに関連施策を整理している。

### 4. 地域の「稼ぐ力」や「地域価値」の向上につながるまちづくりのKPI選択肢例

#### 【資料5】

各地域がまちづくりを推進していくに当たっては、それぞれの地域の実情に応じて、明確で、かつ、地域住民等と共有可能なKPIを設定することが必要である。本政策パッケージでは、「稼ぐ力」や「地域価値」の向上に取り組む地域の関係者の参考となるよう、各地域が着目する需要に応じて、KPIの選択肢例を示す。

まちづくりは息の長い取組みとなる一方で、その取組みの進捗状況については、適

時に点検することが必要である。このため、例えば、まち全体として「何を実現するか」、「何をどう稼ぐか」、あるいは、「稼ぐために、具体的に何をするか」という点を明らかにした上で、検証可能な具体的なKPIを設定する必要がある。その際、KPIの選択肢例については、短期的に検証するアウトプット指標と、中長期的に検証するアウトカム指標といった、体系化した形で示す。

このKPIの選択肢例は、あくまでも各地域がKPIを設定する際の参考として提示しているものであり、各地域においては、それぞれの現状分析を行った上で、地域の実情に応じ、本政策パッケージで示しているKPIの選択肢以外の指標を含め、適切なKPIを柔軟に採用することが期待される。

(資料1) 稼げるまちづくりを支援する包括的政策パッケージ(概要)

(資料2) 地域の「稼ぐ力」や「地域価値」を高めるまちづくりのフロー

(資料3) 地域の「稼ぐ力」や「地域価値」を高めるまちづくりの全体像

(資料4) 地域の「稼ぐ力」や「地域価値」を高めるまちづくり関連施策

(資料5) 地域の「稼ぐ力」や「地域価値」を高めるまちづくりのKPI選択肢例